

登録コード	EKD07900	開講年度	2026				
授業科目	高度実践研究とリフレクションⅡ（特別支援教育高度化P）					担当教員	上村 恵津子 他
英文授業名	Advanced Educational Practical Research and Reflection Ⅱ： Special Needs Education (Program)					副担当	奥村 真衣子・戸谷 健史・下山 真衣・宮地 弘一郎・楠見 友輔
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】
24EAカリ							
教育の専門職としての学識・技能					⇔	①教育現場における課題に関連する文献や情報を収集し，実践と関連づけて検討することができるようになる。	
教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点					⇔	②課題追究に先立ち，実践校・実践クラスの実態を把握・分析するとともに，高度実践研究とリフレクションⅠを基に，教育現場が直面する課題を省察的に検討することができるようになる。	
子どもの多様なニーズへの対応力					⇔	③特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより，子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。	
協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力					⇔	④学校内外の支援者との連携に基づき，子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。	
26EAカリ，25EAカリ，24EAカリ							
既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力					⇔	26・25EAカリ ①教育現場における課題に関連する文献や情報を収集し，実践と関連づけて検討することができるようになる。②課題追究に先立ち，実践校・実践クラスの実態を把握・分析するとともに，高度実践研究とリフレクションⅠを基に，教育現場が直面する課題を省察的に検討することができるようになる。③特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより，子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。 24EAカリ ⑤特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより，教育現場における課題を省察的にとらえることができるようになる。	
24EAカリ							
社会の一員である教員として生きる意志と倫理観					⇔	⑥教育現場が直面する課題を省察的に検討することができるようになる。	
(2)授業の概要	本授業では，実習ポートフォリオ，フィールドポートフォリオ，カンファレンス資料等の授業資料，講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し，その考察により課題追究にあたる。担当教員が，特別支援学校の実務経験を活かして演習を行います。						
(3)授業計画	第 1 回：課題の追究(1)ー子どもの実態把握・分析ー 第 2 回：課題の追究(2)ークラスの実態把握・分析ー 第 3 回：課題の追究(3)ー学校の実態把握・分析ー 第 4 回：課題の追究(4)ー長期目標・短期目標の設定ー 第 5 回：課題の追究(5)ー個別の実践計画ー 第 6 回：課題の追究(6)ー集団の実践計画ー 第 7 回：課題の追究(7)一次年度課題追究に向けて（インタラクティブセッションに向けて）ー中間報告資料Ⅱ						
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は以下の通りである。 26・25EAカリ ・授業の達成目標①～③への取組みの経過を確認する省察ポートフォリオの作成状況:50% ・授業の達成目標①～③の到達度を確認する中間報告資料Ⅱ：50% 24EAカリ ・授業の達成目標①～⑥への取組みの経過を確認する省察ポートフォリオの作成状況:50% ・授業の達成目標①～⑥の到達度を確認する中間報告資料Ⅱ：50%						
(5)履修上の注意	内容により，授業日や開催場所を変更することがある。						
(6)質問,相談への対応および連絡先	上村：kamieta@shinshu-u.ac.jp (4243) 奥村：maio@shinshu-u.ac.jp (4206) 戸谷：toya_kenji@shinshu-u.ac.jp (026－241－1177) 宮地：miyaji@shinshu-u.ac.jp (4201) 下山：mshimoyama@shinshu-u.ac.jp (4205) 楠見：kusumi@shinshu-u.ac.jp (4202)						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：実践校・実践クラスの実態を把握・分析するとともに，授業やカンファレンスの成果と実習の往還に基づいて省察を深め，課題を検討している。 「かなり上である」：実践校・実践クラスの実態を把握するとともに，授業の成果，カンファレンスの成果，実習ポートフォリオを関連させながら省察し，課題を検討している。 「やや上にある」：実践校・実践クラスの実態を把握するとともに，授業の成果，若しくはカンファレンスの成果，若しくは実習ポートフォリオや文献に基づき課題を検討している。 「水準にある」：何らかの省察を行い，課題を検討している。						

(7)成績評価の基準	・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可
(8)事前事後学習の内容について	・授業にあたっては、各授業における学習内容が、自らが追究する課題とどのように関連するかをまとめておくこと。 ・課題に関連する文献や情報を収集しておくこと。 ・この授業は45時間の学習を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。